

「アドヴェントの心」

教会暦は12月1日(日)より新しい年を迎えアドヴェント(降臨節)を迎えました。気持ちを切り換えてこの期節を過ごして参りたいと思います。アドヴェントとは「到来する」という意味があります。現在私たちが使用している日本聖公会聖歌集には収められていないのですが、皆さんは増補版聖歌集を覚えていらっしゃるでしょうか。ちょうど聖歌集が古今聖歌集から現行聖歌集へ改正される過程の中で一時用いられた緑色の表紙の聖歌集です。その中に「主を待ち望むアドヴェント」という聖歌がありました。

第1節の歌詞は「主を待ち望むアドヴェント最初のろうそくともそう 主が道を備えられたこの時を守ろう」から始まるのですが、この聖歌を歌いながらアドヴェントリースに毎主日ごとに火を灯していきました。

日本基督教団の『賛美歌21』には収められており、日本聖公会聖歌集にも個人的には収めて欲しかったなと思っております。

幼稚園、日曜学校の子どもたちはワクワクしながらアドヴェントリースの火を見つめ、アドヴェントカレンダーを毎日一つずつめくっていきます。冒険という意味がある「アドヴェンチャー」はワクワクドキドキします。

子どもたちは「アドヴェンチャー」が大好きです。この世界に産まれて子どもたちが出会っていく一つ一つの出来事が冒険の旅なのだろうと子どもたち、そして我が家の二人の子どもの姿を見ながら思います。

アドヴェントは「到来する」という意味があると先述しましたが、私たちは2つの到来を待ち望むのです。一つは言うまでもなく主の誕生「クリスマス」です。そして、もう一つは主の再臨、つまり「神の国」の完成を待ち望むのです。「1年の計は元旦にあり」とは毛利元就の言葉であるそうですが、私たちの信仰生活の計は神の国の完成を待ち望むことで

あることを1年の始まりに改めて心に覚えることが大切だと思います。いふなれば私たちの信仰生活において大切なのは「アドヴェントの心」を持ち続けることではないでしょうか。

実際にアドヴェントの主日ごとに読まれる福音書も主の降誕に関連する箇所は降臨節の後半になって選ばれておりますが、前半は「神の国」の到来を待ち望むように呼びかけられています。主の道を歩むためには自分自身の心を整理していく必要があります。そういう私自身が一番心を整理していく必要があるなと実感しています。こうして文書を書いているとき、聖書に親しむ会で一緒に聖書を読み自由に語り合う時、園の子どもたちや家族と過ごす時間、信徒の皆さん、園の先生方、日々出会う方々と過ごす時間、そして皆さんと一緒に献げる礼拝、また大切な方が逝去された悲しみの時間も私にとってとても大切な「時」です。そして私自身に「アドヴェント」の心をいつも覚えさせてくださるのです。これからもどうぞよろしくお願ひします。そして、ご一緒に主を待ち望むアドヴェンチャーをドキドキワクワクしながら続けて参りましょう。(司祭 越山 哲也)

